



おすぎ

はじめて
自転車の荷台を
使ってみた

こんにちは、おすぎです。いかがお過ごしでしょうか？
自転車の荷台に電子レンジ乗せて持って帰れるんじゃないか？と「魔が刺した話」をしようと思います。

私事ですが引越しをしまして、移動に新しい自転車が必要になったので徒歩で買いに出かけました。ちょっと遠いけど歩きでも楽勝でしょ、帰りは乗って帰ればいいし、と安易に出かけました。ところが一軒目に気に入る自転車がなく、遠回りして二軒目に行きました。この時点でかなり疲れています。無事購入し、帰ろうとしたらすぐ電子レンジが欲しいから買って帰って来て欲しい、と連絡が…自転車？無茶言うやん！無理！いや、いけるか？荷台、いけるか？乗せたことないけど…行ける気がする！！



行きはまだ、新しく住む街の写真を撮る余裕がありました

根拠のない自信とともに軽くOKと返事をし、荷台で縛る紐を買い、電子レンジを購入しました。めっちゃ重い。

急に自信がなくなりましたが、引き返せません。荷台に電子レンジを置きました。レンジ落としました。もう心が折れそうです。助けを求めてもよかった、でも自分で出来ると判断したプライドがある。なんとか紐で縛りました。肩を痛めました。自転車グラグラする！積載量はこえてないはず。でもこれは危ない、ので自転車を押して帰りました。一生懸命押ししました。重い…遠い…辛い…重い…信号待ちの車に見られている中、コントのように歩道のポール2本の間にレンジが引っ掛かり、挟まりました。泣きそう。こんなことになるなら、一回家に帰って車で出直せば良かった。と何千回も思いながら帰宅しました。やり切った自分を褒めたい所ですが、必要ない無茶はしないほうがいいです。次の日、変な所が筋肉痛になりました。



この日の歩数は1万超え

今回の学び 根拠のない自信を信じすぎるな

アジアを代表するデュオ

CHAGE
and ASKA



おろ

宣言ダイエットはおやすみしてw
今回は好きなことを書こうと思います。小学生の頃ブームを迎え今日まで聞き続けてきたCHAGE and ASKAのこと。YouTubeの再生コメントなどを見ていると、なんとかこの方達の素晴らしい歌声を後世まで残したいと思っているチャゲアスファンがたくさんいることに喜びを感じています。

この数年色々ありましたが、この方達の輝かしき経歴の数々は隠しようのない事実で、アジア人唯一の『MTV Unplugged』へ出演は未だにチャゲアスだけ！

今回紹介したいのはチャゲアスを語る中では外せないかの有名な「SAY YES」や「僕はこの瞳で嘘をつく」が収録されているアルバム『TREE』。チャゲアスはASKAがメインボーカルだと思われがちですが、そのイメージは捨てて欲しい。歌唱力オバケと言われているASKAの横で勝るとも劣らないハーモニーを生み出せるのはChageしかない。今だからこそそのChageの存在の大きさをファンは痛感しています。

有名な曲はASKAが手掛けているケースが多いですが、このアルバムはASKA7曲、Chage4曲、C&A1曲という2人の手掛ける曲がバランスよく聞くことができます。個人的には隅々まで全部聞いて欲しいぐらい素晴らしいアルバムですが、その中で珍しい作曲をC&Aで手掛けた「MAZART VIRUS DAY」を紹介します。AメロBメロをChage、CメロDメロをASKAが作曲している。Bメロの転調でバンドサウンドのR&Rへ変化する。しっとりとした激しいそれぞれの個性が化学反応するこの曲を「あっChageだな、ASKAだな」と感じながら一度聞いてみて欲しい！また、Chage作曲の「CATCH & RELEASE」もおすすめでファンクテイストでどっちが主旋律かわからなくなるハイレベルな決して1人でカラオケでは歌えないこの1曲も聞いて欲しい。映像もChagesノリノリで面白いので見てください。

チャゲアスは生歌がCDとかわらない！もしくはそれ以上！しかも古さを感じさせない。アルバム『TREE』持ってたけど有名な曲しか聞いていない人、もう一度引っ張り出して聞いてみて欲しい。

「私の一番好きな花は…」



チンゲンサイ

9月に植えた青梗菜が11月には☆ダイナミック



美味しくいただきましたが、株を数本残し…



来春には…



スゲエのが待ってるんだぜ

☆ダイナミック



平田

よもやまばなし

師走：椿の間

UEDAの『よもやまばなし』も3回目の歳末を迎えます。そろそろ小冊子ができるかもしれない。さて、12月いよいよ寒くなってくらしのでダウンコートの準備をしてください！灯油にツリー、年賀状、コタツに洗車！みなさんラストスパートです！最後の力を振り絞って良いお年をお迎えください。

早いものでもう12月ですね。「師走」ってなーやつですか
12月に入るとよく耳にするのが「年の瀬」ちゅー言葉。「年の暮れ」「年末」「歳末」とかゆーのと同義語で、1年の終末の事。だけど、12月の初めから使うにはどーもしっくりこない。じゃーいつ頃を「年の瀬」で呼ぶんだろ？そいで、どーゆー背景があってそー呼ぶようになったんだろ？てね、思ったわけ。ほんと日本語ってのは意味とか使うタイミングとか曖昧でまた奥が深いからね。正しく使えてるかよく分からない言葉って多いんだよね。とゆーことで、ザックリ調べてみた。
そもそも江戸時代あたりには、ものを売り買いするときに「掛け売り」(まあ簡単に言うと「ツケ払い」の英語じゃ「credit」とこかな?)でえーのが普通だったようで、ツケの支払いは大体が「盆」か「暮」にまとめて行うことが多かったんだね。だから、ツケの支払いをきちんと精算して、無事に年が越せるかどうかが一番重要になる年末のことをそー呼ぶ。まさに死活問題、必死だったわけだね。そんで、その年の暮れにあおたたく年越し準備をする様子を「川の瀬」(流れが早く水深の浅い場所)に見立てて、「年の瀬」ってゆーよーになったてことらしい。
結局明確な日にはよくわからなかったんだけど、おいちゃんの考察では「12月も半ばを過ぎた、残り2週間ぐらい」ってところかな。と。昔の人が、無事に新年を迎えられたのを、心から有難いと思っているのにはそんな背景があったんだね。

それではどちら様も、身体には充分お気を付けていただきまして、良いお年をお迎えくださいまし。

